

日本三大崩れ「稗田山崩れ」等を対象とした砂防文化・技術を観光資源とする地域振興の取り組み

小谷村：中村 義明、北村 幸治、○細澤 恵一
 長野県 姫川砂防事務所：柳澤 豊茂*1、丸山 尊*2
 長野県 建設部 砂防課：吉村 元吾*3、世古 元司
 北陸地方整備局 松本砂防事務所：石尾 浩市*4、小口 貴雄
 (一財)砂防フロンティア 整備推進機構：今井 一之、井上 淳平
 *1 現 長野県 大町建設事務所 *2 現 長野県 建設業協会 *3 現 国土交通省 砂防部
 *4 現 関東地方整備局 富士川砂防事務所

1 はじめに

長野県小谷村は、日本三大崩れのひとつ稗田山崩れ(写真-1)を抱え、他にも蒲原沢土石流災害や真那板山大崩落など、幾度も自然災害を経験しており、村内には土砂災害から国土・地域を保全するために、国・県による数多くの砂防事業が展開され、日本の誇る砂防技術が集積されている。



写真-1 稗田山崩れ（金谷橋から上流を望む）

こういった砂防文化・技術に対して、情報発信や地域振興への利活用等を進めていくため、小谷村・長野県姫川砂防事務所・国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所(以下、関係機関という)等が実施してきた取組み、今後進めたい取組みを報告する。

2 小谷村の災害伝承と地域活性化の取組み

2.1 おたりの砂防ダムツアーについて

「おたりの砂防ダムツアー（以下、砂防ダムツアーという）」(写真-2)は、(一社)小谷村観光連盟が企画・運営・実施しているものであり、県や国管理の砂防ダム等を巡るツアーを、これまで平成26年～令和7年3月現在まで12年にわたり約90回実施している。



写真-2 砂防ダムツアーの一例

2.2 OTARI 砂防・防災フィールドミュージアム構想(案)について

「OTARI 砂防・防災フィールドミュージアム構想(案)（以下、構想(案)という）」は、小谷村第6次総合計画(R3.4)及び住民ワークショップの意見を踏まえ、令和4年度にとりまとめた。

構想(案)は、砂防文化・技術の情報発信や、防災減災意識の高揚による地域防災力の強化、観光資源との連携による地域振興への利活用を進めていく目的(図-1)で、4つのテーマ(「小谷村の自然災害文化を地域から、広く日本・世界に発信しよう」など)を設定し、12の主要施策(自然災害の歴史、「伝承」、「諺」、「災害石碑」等を整理など)を検討するとともに、村の立体地図に全体像(過去に発生した自然災害位置、観光資源、塩の道ルートなど)をとりまとめた(図-2)。

日本三大崩れのひとつ稗田山崩れを抱え、幾度も自然災害を経験した、豊かな自然環境の中で元気に人々が暮らす小谷村の、魅力ある観光資源を内外の方々に発信するとともに、地域防災力を強化してさらに災害に強い小谷村を目指すために砂防・防災ミュージアム構想を企画しました。

村内には、土砂災害から国土・地域を保全するために、国・県による砂防事業が展開され、日本の誇る砂防技術が集積されており、まさに「砂防文化」が育まれているといっても過言ではなく、砂防文化・技術の情報発信や、防災減災意識の高揚による地域防災力の強化、観光資源との連携による地域振興への利活用を進めていくため、砂防・防災に関する「フィールドミュージアム」構想案をとりまとめました。

図-1 構想(案) 目的

【4つのテーマと12の主要施策】

テーマA：小谷村の自然災害文化を地域から、広く日本・世界に発信しよう。

- 自然災害の歴史、「伝承」、「諺」、「災害石碑」等を整理
- 自然災害の現象、災害形態、災害復旧と予知する技術を整理
- 小谷村の災害・防災に関する全ての情報を発信する仕組みづくり

テーマB：小谷村の自然と歴史を活かし「体験ツアーの企画・宣伝」により体験客を呼び込もう。

- 山・渓流・河川・森林など「自然資源に触れるツアー」の企画運営推進
- 災害履歴地を巡る「災害の伝説・昔話を体験するツアー」企画運営推進
- 自然資源を活用した古くから伝わる「郷土料理体験ツアー」の企画運営推進

テーマC：小谷村の自然と資源を活かした「健康スポーツの振興」により利用客を呼び込もう。

- 小谷村で可能な健康スポーツの実践方法とその場所を提供
- 山・川・森林・道を使った健康レクリエーション・スポーツ振興
- 室内における健康レクリエーション・スポーツ振興

テーマD：小谷村の特性を活かした「人材教育と交流の場を提供」しよう。

- 自然災害、エネルギー研究者を支援・創出する施策
- 古民家・空き家を活用した「夏休み自然体験学習塾」の開催
- 施策の進捗・評価の見える化とワークショップの開催

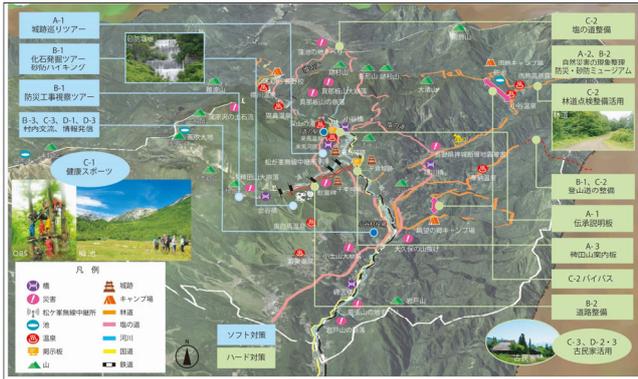


図-2 構想(案) テーマ、主要施策、全体像(抜粋)

2.3 稗田山崩れ等伝承委員会について

「稗田山崩れ等伝承委員会(以下、委員会という)」は、長野県姫川砂防事務所が、稗田山崩れ及び小谷村内の砂防施設を災害伝承資産として活用すること等を目的に設置した。

委員会は令和4年11月から令和5年10月まで計5回実施され、「提言一：小谷村が有する“災害文化”の世界への発信」、「提言二：日本三大崩れと称される“稗田山崩れ”の高度な観測・監視体制の整備と安全に向けた対策の着実な実施」や「提言三：“稗田山崩れ”をはじめとした壮大な災害地形の広域観光への活用」といった提言を小谷村に行った。

3 稗田山関係事業等に係る整備計画(案)の作成

「稗田山関係事業等に係る整備計画(案)(以下、計画(案)という)」は、2.で示した構想(案)及び委員会提言を踏まえ、より具体的な計画として小谷村が主体となり、関係機関の協力・支援のもと作成した。

計画(案)は、令和6年3月から令和7年2月にかけて、関係機関による2回の実行検討会を実施し、「稗田山をはじめとする“自然災害文化”を観光資

源として活用し、壮大な災害地形と自然災害と戦う砂防事業を体感(見る・知る・学ぶ・肌で感じる)してもらおう」を目的に、ハード面及びソフト面の両面の整備を目標とした(図-3)。当面は計画(案)に基づき、ソフト面の取組みを進めていきたいと考えている。



図-3 整備計画(案) イメージ

4 まとめ

前述の計画(案)に基づき、小谷村は令和7年3月までに、村内のデジタルサイネージ用の稗田山紹介動画(1分)の制作(写真-3)及び、長野県職員OB及び登山系Youtuberとのコラボで紹介する「稗田山崩れについて学ぶ動画(13分)」を制作し、小谷村CATV【おたりがぶったch】にて発信している(写真-4)。



写真-3

デジタルサイネージの例



写真-4 稗田山崩れについて学ぶ動画

謝辞

本整備計画(案)の作成に際し、関係機関等の皆様には様々なご支援・ご協力を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。